

心のバリアフリー

中沢中学校

のかがお

はるき

一年

野上

陽生

今回、僕は福祉作文に取り組むにあたり、

まず、福祉について知らなければならぬとい

思い、辞書で調べてみたところ、「幸福。公

的扶助やサービスによる生活の安定、充足

とありました。公的扶助とは国や県、市が、

生活に困窮する人々に対し、経済的に最低限

度の生活を保障し、自立を助けようとする制

度のことだそうです。

僕の祖父も、パーキンソン病という病気を

患っており、支援を受けています。パーキン

ソン病とは、脳の指令を伝えるドーパミンと

いう物質が減ることによって起こる病気で、

で、体がふるえる、動作がゆっくりになる、

筋肉がこわばり手足が動かしくくなる、転

びやすくなるなどの症状がでます。ですが、

祖父の場合は、病気が進行しているため、こ

のような症状に加え、服用している薬の効果

か切れてしまふと動けなくなつてしまつたり、
ロヂ舌なごも動きづらくなつてしまふため、
喋ることも難しくなつてしまいます。実際に
みんなが話しているときや出かけているとき
に動けなくなつてしまつたりして、一緒に旅
行などにも行けないのでとてもかわいそうだ
なと思います。だんだんとてもできることも少な
くなつていつてしまつているので本人も大変
そうだし、それを手伝つている祖母も自分
りも大きな祖父も支えたりとても大変そう
だなと思います。
僕は、これまで自分福祉とは全く関係
ないと思つていましたが、元氣だった祖父が
病気になるつてしまひ、福祉サービスを受ける
ようになつたというとてもきつかけに、自分
も福祉と無関係というわけではなく、自分も
福祉を受ける側になりうるんだというとても
考えるようになり、バリフリーの大切さに
ついても改めて知りました。ですが、今の時
代、バリフリーー化が進んできているとはい

え、病氣、障害も持っていている人たちからするとまだまだ不便なところもあるんじゃないかと思ひます。なぜなら、祖父も数段の階段が上かれずに、エレベーターやスロープがなくて困った経験があるからです。また、ネット下障害を持つた人たちにとって普段の生活の中で障害を理由に不便を感じることに çık すすことも多くあるかというアンケートも見てみたところ、7割以上の人が多いて回答していただきました。さらに、ネットでの障害のある人たちがどのようなことに困っているかを調べたところ、段差があったり、ボタンが届かない位置にあるなどの物理的なバリエーション。盲導犬が店に入れないなどの制度的なバリエーション。聴覚が不自由な方は音声の案内が聞えないなどの情報面のバリエーション。精神障害を抱える人に対して、何をしてくるか分からないから怖いという決めたついたり、点字ブロックの上は無意識にものを置いてしまったりする意識上のバリエーションがあるそうです。そして、そのよう

こともふまえ、周りを見ておるで確かに、段差の多い場所があったり、車椅子に乗っていらるも届かなそうなところにボタンがあったり、盲導犬の入れない店があったりしました。

このようなことから、僕は、病気や障害を持つ人たちがもっと暮らしやすい社会をつくるためには、まず、みんなが、病気や障害をもつた人たちのこともよく知ること、これがとても大切なんじゃないかと思っています。

そして、知った上で、いつ、誰もが福祉を受けける側になりうるということも知り、病気や障害をもつている人たちの問題、ではなく、自分ごとのように考えるということが大切なんじゃないかと思っています。また、バリアフリーで病気や障害をもつた人たちの不便を全て解消するというのがとても難しいことだも思います。そのため、補えないところは周りの人たちが手助けをしたりして、心のバリアフリーで補い、支え合っていていきたいと思っています。